

【企画委員会報告】

## 平成 22 年度 就職懇談会 報告

企画委員 皿谷 弘樹(短 2 回生)

記録的な暑さが続き、学生にとってまだまだ夏休み気分が抜けていない平成 22 年 8 月 28 日(土)、4 年制大学に昇格して初めて就職活動を行う大学 4 年生と短大 3 年生併せて 65 名の出席を得て本学ならではの就職懇談会が開催されました。

宮本要一企画委員長(49 回)の開催趣旨説明に始まり、埜藤真純学友会会長(43 回)の挨拶のあと講師陣 6 名の紹介が司会進行を務める西田高大氏(短 13 回)よりなされて講演が始まりました。講演者の氏名、所属、発表テーマは次の通り。尚、記載は発表順です。



- ・西田 高大 (西宮市立中央病院)短 13 回生 「公務員になるには、AI について」
- ・恒見 有紀 (京都ルネス病院)短 13 回生 「医療過疎地域における技師の現状」
- ・竹井 美佐希 (みどりヶ丘病院)短 13 回生 「女性技師の立場から」
- ・風川 かおり (シーメンス・ジャパン株)短 11 回生 「メーカーにおける技師の役割」
- ・霜村 康平 (近畿大学医学部附属病院)短 11 回生 「何のために勉強をするのか...気づき」
- ・植村 博次 (神奈川県予防医学協会)短 2 回生 「検診に関する豆知識 Q&A」

西田氏は、地方公務員の待遇は絶対ではなく市長の方針によって翻弄されることもある...など。プラス症例画像を見ながら技師の仕事を説明していただきました。

恒見氏は、救急受入れ態勢など福知山市と京都市を比較現状分析、給与に代えられない人間関係の重要性...など。プラス経皮的椎体形成術の症例を説明していただきました。

竹井氏は、結婚、出産、育児などの対応、マンモグラフィ認定資格の有利さ、就職前後の心構え...など。特に国家試験の勉強方法についてレクチャーしていただきました。

風川氏は、病院とメーカー勤務の違い、メーカーで働くメリット・デメリット、語学の重要性...など。勉強を継続して社会福祉に貢献することの重要性を教えていただきました。

霜村氏は、漠然と物事を捉えるのではなく具体的に物事を捉えるようにする、人の命を救うために勉強・仕事をする...など。何のために??を考えモノの本質に気づくことの大切さを教えてもらいました。植村氏は、病院と検診の業務内容の違い、知識あつての技術向上、接遇の重要性...など。施設見学の際、技師と医師のコミュニケーションの状態で職場の環境の善し悪しがわかることを教えてもらいました。

一方、学生からの質問には、「自宅での勉強方法について」、「臨床実習中に基礎勉強ができていなくて大丈夫なのか」があり質問を受けた講師陣は自分の体験を通して丁寧に説明していました。

講演が終わった後、オブザーバで出席いただいていた神澤良明副会長(43 回生)、堀井均理事(55 回生)、川光秀昭氏(54 回生)らにそれぞれ国家試験の勉強方法、成績を上げるためにやらなければならないことなどカンフル剤を注入すべく叱咤激励していただきました。



講演のあとは、場所を室外のバーベキューコーナーに移し、講演中にはできなかったざくばらんな情報の交換が行われました。埜藤会長の乾杯音頭に始まり西谷先生特製の焼肉・魚介類・野菜に舌鼓を打ち片手にビールを持ちながら講師の話に熱心に聞く学生の輪があちこちで見られました。

最後になりましたが、業務多忙の中をぬってご出席いただいた上にお世話までしていただいた学友会の皆様、大学教職員の皆様に感謝を申し上げたいと思います。ありがとうございました。

以上

\*通巻 198 号 2011 年 1 月 10 日発行(H22 - No.4)より